

新・東の風

令和2年度
9月号

17日間というこれまでにない短い夏休みが終わり、2学期が始まっています。世の中は、コロナウィルス感染症の影響でこれまでにない新しい生活様式が始まっており、学校生活においても、終業式や始業式、全校集会をリモートで行うなど、新しい学校生活に向かっています。まだまだ考えなければならない課題がたくさんありますが、解決できるよう努めていきます。

さて、2学期が始まりました。期間にすれば一番長いのが2学期です。3年生にとっては進路に関して方向を定めていく大切な時期になります。が、来週火曜日からは延期になっていた修学旅行です。つい先日まで、修学旅行が本当に決行できるのか心配でした。隣の東大阪市はじめ、豊中市、高槻市など市として一斉に中止しています。コロナウィルス感染症も終息はしていません。そんな中でも修学旅行を実施するのは、「子供たちが成長する中で人格を作るための思い出になる大きな行事である」ためです。今まで以上にルールを守り、安全に配慮しながら、中学校時代の大きな思い出を作り、少しの間ですが楽しんでください。

10月には1学期に開催予定であった運動会、11月には文化祭と毎年学校全体が熱くなる学校行事が予定されています。しかし、今年は現段階において詰め切れていない部分もあります。運動会での保護者様の観覧、文化祭においての体育館に入る人数、舞台発表の内容など、検討課題が山積しています。コロナウィルス感染症の状況は、日々変化していますので、様子を見ながら計画を再考しながら実施していく予定です。

コロナウィルス感染症の関係で、何をするにも制限があり、何をするにもやりづらいし、できない、と嘆く声がよく聞かれます。その中でも「ピンチをチャンスに」と言われるような考え方で新しい事業を展開するなど工夫をしている人々もおられます。先日、研修会で興味深い話を聞きました。これまで、企業が最も重視する項目は「人柄」であったそうです。採用の基準としては「考え方や価値観」、「性格・人柄」、「意欲・熱意」、「礼儀・マナー」などの「心」に関わる項目を最も重視していました。今、経済界が求める項目は「主体性」。主体性というのは、「自分で考えて」、「自分から行動を起こし」、「自分の行動に責任を持つ」ことです。そのためには、自分で考える訓練（思考力）や何事にも疑問を持つ（疑う力）を持つことです。すなわち、自己開発能力（自己啓発）を身につけることです。

自己開発能力（自己啓発）とは、「自ら課題を見つけ、自ら学習する」能力。